

平成 28 年 2 月 3 日

福島大学 環境放射能研究所 第 2 回 I E R 成果報告会の開催について

福島大学環境放射能研究所は、平成 25 年 7 月に設立され、環境中へ放出された放射性物質の挙動や影響について研究しています。このたび、「植物、動物や魚類への放射性物質の取り込み、森林、河川湖沼、海洋等における放射性物質のふるまい」に関する研究成果を、一般の方にもわかり易く紹介する機会として、第 2 回成果報告会を開催いたします。

- 日 時：平成 28 年 3 月 7 日（月）10：00～18：00
- 場 所：コラッセふくしま 4 階多目的ホール
- 発表者：福島大学 環境放射能研究所研究員
連携研究機関（筑波大学、広島大学、長崎大学、東京海洋大学
福島県立医科大学、放射線医学総合研究所）
- 内 容：口頭発表およびポスター発表（日英同時通訳、要旨集配布あり）

※参加無料でどなたでも参加できます

主催：福島大学／福島大学環境放射能研究所

（お問い合わせ先）

福島大学環境放射能研究所 事務室

電話：024-503-2978 FAX：024-503-2921

Email：ier@adb.fukushima-u.ac.jp

土壌、森、水、大気、海洋、生物など多角的調査から福島を伝える

福島大学 環境放射能研究所

第2回 IER 成果報告会

IER Annual Progress Report Meeting

2016 **3/7** (Mon) 10:00-18:00

コラッセふくしま 4F 多目的ホール

口頭発表およびポスター発表

日英
同時通訳

要旨集
配布あり

参加無料
Webより事前にお申込みください。当日も受付します。

この報告会は、これまでの研究成果を広く一般の方に知っていただく場として開催します。

福島大学環境放射能研究所は二〇一三年七月に設立され、環境中へ放出された放射性物質の挙動や影響について研究しています。

二〇一二年三月から五年が経とうとしています。

高橋隆行／高瀬つぎ子／アラン クレスウェル／アレクセイ コノプリョフ／
脇山義史／ヴァレンティン ゴロソフ／青山道夫／和田敏裕／奥田圭／
ヴァシル ヨシエンコ／難波謙二／トーマス ヒントン／オレナ パレニユーク／
塚田祥文／イスミール ラハマン／平尾茂一／セルギー キーヴァ／
マーク ジェレズニヤク
- 福島大学環境放射能研究所 発表順

恩田裕一（筑波大学）／井出博（広島大学）／高村昇（長崎大学）／石丸隆（東京海洋大学）
／大津留晶（福島県立医科大学）／青野辰雄（放射線医学総合研究所）
- 連携研究機関

●ポスター発表 福島大学／筑波大学／福島県立医科大学／福島県環境創造センター／
福島県水産試験場／福島県内水面水産試験場／福島県畜産試験所



生きものや生態系への
影響はどのくらいあるの？

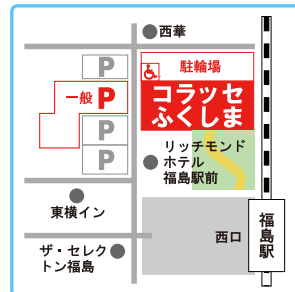


この先、放射性物質は
どうなっていくの？



放射性物質は環境中で
どんなふう to 動くの？

【主 催】福島大学 / 福島大学環境放射能研究所
【問合せ・申込み】
福島大学環境放射能研究所 事務室（浅野・鶏徳）
Tel 024-503-2978 Fax 024-503-2921
mail ier@adb.fukushima-u.ac.jp
URL <http://www.ier.fukushima-u.ac.jp/>



福島駅西口から徒歩1分
お車の方は周辺の有料駐車場をご利用ください。

開始	題 名	発 表 者
10:00	開 会 挨 拶	中井勝己 福島大学長
10:10	所 長 挨 拶	難波謙二 研究所長
10:15	湖沼調査用モジュール構造型小型水中ロボットの開発	高橋 隆行
10:30	放射性物質を含む鉱物の局所構造解析ー放射性セシウムを含む黒雲母の場合ー	高瀬 つぎ子
10:45	携帯機器計測による放射能モニタリング	アラン クレスウェル
11:00	福島起源の放射性セシウムの土壌-水環境における挙動	アレクセイ コノプリョフ
11:15	福島における流域スケールおよびプロットスケールの土砂移動にともなうCs-137の流出	脇山 義史
11:30	大規模洪水による放射性セシウムの再移動と海域への移行	ヴァレンティン ゴロゾフ
11:45	福島原発起源の放射性物質の陸域から水系による移行	恩田 裕一(筑波大学)
12:00	川内村復興推進拠点における長崎大学の活動	高村 昇(長崎大学)
12:15	放射線災害医学教育の新たな挑戦	大津留 晶(福島県立医科大学)
12:30	(昼 食 休 憩)	
13:30	東電福島第一原発事故により北太平洋に放出された放射性セシウムの長期挙動	青山 道夫
13:50	福島沖沿岸生態系への放射性セシウムの拡散	石丸 隆(東京海洋大学)
14:05	ウニの初期発生に及ぼす放射線の影響	井出 博(広島大学)
14:20	放射性核種の生態系における環境動態調査事業ー分析、移行調査と線量評価ー	青野 辰雄(放射線医学総合研究所)
14:35	(休 憩)	
14:45	阿武隈川における溶存態および懸濁態微粒子放射性セシウム濃度のモニタリングについて	難波 謙二
15:00	阿武隈川水系を中心とした福島県の淡水魚の放射性セシウム濃度	和田 敏裕
15:15	津波と放射能汚染からの避難による野生哺乳動物への影響	奥田 圭
15:30	野生生物の放射線量測定のための新しい手法について	トーマス ヒントン
15:45	福島の森林における放射性セシウムについて	ヴァシル ヨシェンコ
16:00	土壌生態系の微生物とセシウム移行におけるその役割	オレナ パレニューク
16:15	(休 憩)	
16:25	放射性核種の存在形態研究ー土壌および農業用水における ¹³⁷ Csの存在形態とイネへの移行ー	塚田 祥文
	固定環状化合物を用いた水溶性Csの形態分析	イスマイル ラハマン
16:50	福島第一原発事故後の放射線核種の大気拡散モデル	
	ー事故後の主な研究成果とこれからの研究予定についてー	平尾 茂一
17:05	福島県に沈着した原発事故由来の放射性核種の集水域から河川網への流出モデリング	セルギー キーヴァ
17:20	福島県の河川および貯水池の放射性核種の動態予測と水浄化手法のモデルに基づく評価	マーク ジェズニヤク
17:35	質 疑 応 答	
17:55	閉 会 挨 拶	

【参加申込書】第2回福島大学環境放射能研究所成果報告会

連絡先	所属先名：	
	住所〒	
	ふりがな 氏名	
	Tel	Fax
E-mail	次の報告会案内について ☐ 要 ☐ 不要	

2月29(月)までに上欄にご記入の上、FAX(024-503-2921)かE-mail(ier@adb.fukushima-u.ac.jp)にてお申し込みください。

提供いただいた個人情報は、国立大学法人福島大学個人情報保護管理規則に従い、適切に管理・利用いたします。

成果報告会では、今後の研究活動に活用するため、内容の記録、会場での写真・映像撮影及び録音を行います。撮影した写真・映像及び録音した内容は成果報告会報告書のほか、ホームページ、パンフレット、一般向けの書籍等にも使用させていただくことがあります。

また、報道機関による取材が行われる場合、撮影された映像・画像はテレビ、新聞等の各種媒体において利用されることがあります。